

群馬県認知症ケア専門士会活動報告

はじめに、私達、群馬県認知症ケア専門士会は事務局を県都、前橋市に拠点をもち活動しています。周りには赤城・浅間山だけでなく、榛名山、妙義山をも見渡せる風光明媚・名物の空々風が吹く関東平野の一角です。もともと、群馬県では、認知症ケアを志す認知症ケア専門士の有志が集まり、2006年より任意団体を立ち上げ、認知症ケアの質の向上を目指して活動してきました。その団体は2,009年にNPO法人「群馬県認知症ケア研究研修連絡協議会」となり、その後、色々な経過をたどり市民後見人養成事業等や他の分野の活動にも発展しています。また、現在の「群馬県認知症ケア専門士会」は2011年、日本認知症学会の承認を受けて誕生致しました。活動内容としてはケア専門職が認知症の「その人」を理解し、より「その人」に合ったケアを現場で、実践し、リーダー的役割を發揮することです。従って、継続的な事例検討会、幅広い知識を得るための講演会活動を主にを行っています。また、中央で行われる講演回数では、中々、単位修得が難しいという会員の声に基づき、学会の単位修得の支援も積極的におこなっています。

その他、会員の方との情報交換の場として、メールの充実も図り、会から毎月、現場の認知症ケアに関するコラムを、理事が交代で配信して連携を図っています。認知症ケア専門士・介護福祉士受験対策講座等も実施し、お互い切磋琢磨の場の提供も行っています。

現在、会員は110名、役員は会長を含め13名で、毎月理事会を開催しています。

《講演会》 25年9月29日 群馬県民健康科学大学大講堂 参加人数 200名

- ・「認知症のひとの安全な介護」 講師：山田滋先生（安全な介護実践研究センター）
- ・「認知症の人の在宅生活を支えるために」 講師：種村留美先生（神戸大学医学部保健学科教授）



《介護支援専門員研修の専門課程IIグループホーム研修支援》

群馬県認知症ケア専門士会が中心になり、上記研修を行っている風景です。内容は、認知症の人の「アセスメント過程」を使用し望むケアをグループ研修全体を通して認知症の生活機能の視点でその人の生活できるプラン作成を目研修で学びが深いとの意見



ワークで導き出しているところです。知識深め、BPSDの精神症状対応や持っている力を知り、その人らしく指しています。研修生からは専門的をいただいています。

《定例役員会》 役員会は月1回行っています。全員が集まることは難しいのですが、参加出来るメンバーでおこなっています。1月に1年間の事業計画や担当者などを決め、それを基に年間の事業を実施しています。役員は群馬県の各地域から参加しますので遠い人では1時間30分位かけての参加になります。



《事例検討会》 年3回

認知症ケアの実現場においては、いろんな人と向き合い、いろんな問題を抱え、日々悩みながらケアに取り組んでいます。「その人」の問題に向き合っていくには「その人」を知るためのアセスメントをもち密に行う以外に適切な方法はありません。多くの行動障害として挙がってくるBPSDの事例は、得ている情報の少なさもあります。さらに、現状ではその背景を掘り下げて思考することに慣れていないこと、私達の知識不足やアセスメントの弱さが大きいのです。そこを、事例検討会を行うことで、事例に即した知識を用いて、真に「その人」の望むことを捉えられるように学んでいきます。また、現在現場で困っている困難事例を、皆で考え、関わりながら、その糸口を見つけることで、分析してケアを導き出して行くことで、認知症ケア専門士としての力をつけて行っています。

《毎月のコラム》

コラムは日頃考えている認知症ケア等に関する「一言アドバイス」のようなものです。毎月、会員へメールでお送りしています。この企画は26年の会長の新年の挨拶から開始しました。会の動きなども同時にお伝えでき、会との関係が密接になりました。

今年度4月のコラムを紹介します。事務局報告 『会員のみなさま4月は新年度で新しい生活の始まりや新人の受け入れなど嬉しくも慌ただしい月ですね。専門士会の状況ですが4月の6日に前橋以外の場所、館林で初めて事例検討会を開催しました。活発に意見交換もでき、人は人との関係性の中で性格が形成されていくことなどを学びました。今後も事例検討会を開催していく予定ですので都合をつけて是非ご参加ください。』

5月担当理事：「みなさまお元気ですか。桜の花もいつの間にかハナミズキにかわり、新緑が初々しい今日この頃です。認知症ケア専門士会の年間恒例イベントとして講演会がありますが、今年度は理事の皆さんの熱いラブコールが叫び、な〜何と！あの茂木健一郎、養老孟司先生と肩を並べるビックな研究者であります「池谷祐二先生」をお呼びできることになりました。池谷祐二先生は、現在、東京大学大学院・薬学系研究科で教授をなさっております。薬の研究はもちろんですが、脳科学の分野では、記憶のメカニズム、脳の不思議さ、人間の脳の癖などを本当に分かりやすく、面白く解説して下さい。講演会は10月19日（日）を予定しております。早速、手帳に印を付けて、ご期待ください。最近、書店の店頭で見つけた池谷先生の著書「脳には妙なクセがある」（扶桑社新書）を購入し、只今読んでいるところですが、な〜るほど、と「目からウロコ」の記述で一杯です。この他にも「海馬」「脳はなにかと言いつつ訳をする」など記憶に関する著書が数多くあります。よろしかったら書店で手に取ってみてください。 文責：吉澤とし江 』